



2021年3月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

2021年1月29日

上場会社名 ジェイ・エスコムホールディングス株式会社
 コード番号 3779 URL <http://www.j-escom.co.jp/>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 大谷 利興

問合せ先責任者 (役職名) 業務管理統括本部 部長 (氏名) 丸山 博之

TEL 03-5114-0761

四半期報告書提出予定日 2021年2月12日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2021年3月期第3四半期の連結業績(2020年4月1日～2020年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年3月期第3四半期	800	21.9	11	77.5	12	75.9	46	
2020年3月期第3四半期	1,024	1.1	51	3.9	50	3.6	33	2.2

(注) 包括利益 2021年3月期第3四半期 46百万円 (%) 2020年3月期第3四半期 33百万円 (2.2%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年3月期第3四半期	4.43	
2020年3月期第3四半期	3.23	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2021年3月期第3四半期	560	339	60.5	32.37
2020年3月期	579	385	66.5	36.80

(参考) 自己資本 2021年3月期第3四半期 339百万円 2020年3月期 385百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年3月期		0.00		0.00	0.00
2021年3月期		0.00			
2021年3月期(予想)				0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2021年3月期の連結業績予想(2020年4月1日～2021年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	993	21.6	11		10		70		6.69

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注) 詳細は、添付資料P. 7「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

以外の会計方針の変更 : 無

会計上の見積りの変更 : 無

修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)

2021年3月期3Q	10,472,990 株	2020年3月期	10,472,990 株
------------	--------------	----------	--------------

期末自己株式数

2021年3月期3Q	317 株	2020年3月期	317 株
------------	-------	----------	-------

期中平均株式数(四半期累計)

2021年3月期3Q	10,472,673 株	2020年3月期3Q	10,472,673 株
------------	--------------	------------	--------------

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に掲載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が発表日現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の実績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	5
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	7
(追加情報)	7
(セグメント情報等)	7

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間(2020年4月1日～2020年12月31日)におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の世界的な感染拡大の中、日本国内においても感染の再拡大に伴い再度の緊急事態宣言が発令されるなど、依然として先行き不透明な状況が続いております。

このような状況の中当社グループは、引き続きテレワークの推進やWEB会議の積極利用により感染症対策を行っております。また年末にかけて経営状況は回復基調にございましたが、再度の緊急事態宣言に伴い特に理美容事業において影響を注視せざるを得ない状況となっております。

理美容事業におきましては、新型コロナウイルス感染症の波に合わせるかのように来店頻度の変動しており、上記のとおり第3四半期におきましては回復基調にありますが、再度の緊急事態宣言が発令されたことに伴い今後経営状況が悪化する可能性がございます。また、通信販売事業におきましては、コロナ禍の影響により在宅客が増加傾向にあり、さらに年末という特殊事情もあるため一時的にはテレビ通販番組への広告掲載が活況な状態となりました。しかしながら、今後コロナ禍の影響により番組の制作が予定通り進まない可能性等もあるため、可能な限り感染症対策を行い影響を最小限にするべく対応を進めていく予定です。

今後当社グループは、理美容事業におきましては引き続き理美容店及びエステサロンへの集客のみに左右されない収益モデルとして販路の多様化を行い、通信販売事業におきましてはコロナ禍における番組制作の方法を検討し、顧客に対して総合的な企画提案営業を行って参ります。

なお、北海道文教大学との包括連携協定に関しまして事業自体は開始されているものの北海道における新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、収録が一旦中止されるなど現在状況を調整中です。また中国における事業展開につきまして、江蘇掌門人网络科技有限公司に関しましては現在中国で販売する商品のマーケティングを行っており、中国市場での商品認知度の上昇を目指す情報交換を行っております。中企連控股集团有限公司に関しましては、当社グループが取り扱う化粧品又は通販関連企業に関する紹介を依頼しており、相手先の情報等を含め先方と情報交換を行って参ります。

以上の結果、当第3四半期における業績につきましては、売上高は800,303千円(前年同四半期比21.9%減)、営業利益は11,668千円(前年同四半期比77.5%減)、経常利益は12,270千円(前年同四半期比75.9%減)、親会社株主に帰属する四半期純損失は46,343千円(前年同四半期33,874千円の親会社株主に帰属する四半期純利益)となりました。

セグメントの経営成績は、次のとおりであります。

なお、第1四半期連結会計期間において「出版関連事業」の量的重要性が低下したことに伴い報告セグメントから除外し「その他事業」に含めております。その結果第1四半期連結会計期間より「理美容事業」、「教育コンサルティング事業」及び「通信販売事業」の3つの報告セグメントとしており、以下の前年同四半期比較については、前年同四半期の数値を変更後のセグメント区分に組替えた数値で比較しております。

① 理美容事業

理美容事業におきましては、前述の通り年末にかけて回復基調にあったものの、新型コロナウイルス感染症の影響は大きく、第2四半期までのマイナスを取り返すまでには至らず当該事業における売上高は130,765千円(前年同四半期比22.9%減)となりました。

② 教育コンサルティング事業

教育コンサルティング事業におきましては、取引先との窓口を非接触型にするなどの感染症対策を行うことにより、前年同四半期と同様の取引を継続することになりました。その結果当該事業における売上高は34,200千円(前年同四半期と同額)となりました。

③ 通信販売事業

通信販売事業におきましては、年末にかけてテレビ通販に関する広告を順調に獲得することができましたが、第1四半期に収録を延期することになったことにより前年同四半期と比較して収録回数が減少したことに伴う放送番組の減少が依然として影響しており当該事業における売上高は634,727千円(前年同四半期比22.6%減)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の総資産は560,190千円となり、前連結会計年度末に比べて19,612千円の減少となりました。流動資産は542,323千円となり、前連結会計年度末に比べて54,102千円の増加となりました。この増加は、主に現金及び預金29,565千円並びに受取手形及び売掛金23,473千円の増加によるものであります。固定資産は17,866千円となり、前連結会計年度末に比べて73,714千円の減少となりました。この減少は、主にのれん66,386千円の減少によるものであります。流動負債は215,729千円となり、前連結会計年度末に比べて25,470千円の増加となりました。この増加は、主に支払手形及び買掛金42,747千円の増加によるものであります。固定負債は5,410千円となり、前連結会計年度末に比べて1,260千円の増加となりました。この増加は、預り保証金1,260千円の増加によるものであります。純資産は339,050千円となり、前連結会計年度末に比べて46,343千円の減少となりました。この減少は、主に利益剰余金46,343千円の減少によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、2020年10月23日付「業績予想の修正並びに特別損失の計上及び繰延税金資産の取り崩しに関するお知らせ」及び2020年10月26日付「(訂正・数値データ訂正)「業績予想の修正並びに特別損失の計上及び繰延税金資産の取り崩しに関するお知らせ」の一部訂正について」で公表いたしました通期の連結業績予想に変更はございません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	384,000	413,565
受取手形及び売掛金	97,667	121,140
たな卸資産	2,639	3,077
その他	4,859	5,716
貸倒引当金	△944	△1,176
流動資産合計	488,221	542,323
固定資産		
有形固定資産		
土地	4,378	4,378
その他	946	797
有形固定資産合計	5,325	5,175
無形固定資産		
のれん	66,386	—
その他	304	227
無形固定資産合計	66,690	227
投資その他の資産		
繰延税金資産	7,323	—
その他	12,241	12,463
投資その他の資産合計	19,565	12,463
固定資産合計	91,581	17,866
資産合計	579,802	560,190
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	131,690	174,437
未払法人税等	7,824	2,864
賞与引当金	1,920	840
その他	48,824	37,587
流動負債合計	190,258	215,729
固定負債		
その他	4,150	5,410
固定負債合計	4,150	5,410
負債合計	194,408	221,139
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,060,437	1,060,437
資本剰余金	622,105	622,105
利益剰余金	△1,297,056	△1,343,399
自己株式	△92	△92
株主資本合計	385,394	339,050
純資産合計	385,394	339,050
負債純資産合計	579,802	560,190

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)
売上高	1,024,853	800,303
売上原価	777,366	617,746
売上総利益	247,486	182,556
販売費及び一般管理費	195,706	170,888
営業利益	51,779	11,668
営業外収益		
受取利息	1	1
受取配当金	—	4
還付加算金	204	—
雇用調整助成金	—	700
雑収入	0	0
営業外収益合計	207	706
営業外費用		
支払利息	186	—
売上債権売却損	799	104
売上割引	58	—
雑損失	37	—
営業外費用合計	1,082	104
経常利益	50,904	12,270
特別損失		
固定資産除却損	1,044	—
減損損失	—	49,790
特別損失合計	1,044	49,790
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期 純損失(△)	49,859	△37,519
法人税、住民税及び事業税	15,984	1,500
法人税等調整額	—	7,323
法人税等合計	15,984	8,823
四半期純利益又は四半期純損失(△)	33,874	△46,343
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主 に帰属する四半期純損失(△)	33,874	△46,343

(四半期連結包括利益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	33,874	△46,343
四半期包括利益	33,874	△46,343
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	33,874	△46,343
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(追加情報)

(新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響に関する会計上の見積り)

当社グループは、将来の事業計画を前提としてのれんの評価及び繰延税金資産の評価を行っております。

当初、新型コロナウイルス感染症の影響に関しまして2020年9月ごろより事態が徐々に改善に向かうと仮定しておりましたが、当該影響については未だに不確実性が高いことから終息時期は予測することが出来ない状況にあるため、翌連結会計年度以降も一定期間にわたり継続するとの仮定に変更しております。その結果として、当第3四半期連結累計期間において減損損失を49,790千円計上し、繰延税金資産を7,323千円取り崩しております。なお、当該感染症による経済活動への影響は依然として不確実性が高いため、再度上記仮定に変更が生じた場合は、今後の財政状態及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

(セグメント情報等)

I 前第3四半期連結累計期間(自2019年4月1日 至2019年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				その他 (注)	合計
	理美容事業	教育コンサルティング事業	通信販売事業	計		
売上高						
(1)外部顧客への売上高	169,699	34,200	820,299	1,024,199	653	1,024,853
(2)セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	9,000	—	9,000	977	9,977
計	169,699	43,200	820,299	1,033,199	1,631	1,034,830
セグメント利益 (又はセグメント損失△)	△6,360	19,114	36,250	49,004	632	49,636

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、出版関連事業及び代理店手数料収入等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容
(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	49,004
「その他」の区分の利益	632
セグメント間取引消去	53,021
全社費用(注)	△50,878
四半期連結損益計算書の営業利益	51,779

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間(自2020年4月1日 至2020年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				その他 (注)	合計
	理美容事業	教育コンサルティング事業	通信販売事業	計		
売上高						
(1)外部顧客への売上高	130,765	34,200	634,727	799,693	610	800,303
(2)セグメント間の内部売上高 又は振替高	151	9,000	—	9,151	904	10,055
計	130,916	43,200	634,727	808,844	1,514	810,359
セグメント利益 (又はセグメント損失△)	△16,256	19,491	9,169	12,404	542	12,946

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、出版関連事業及び代理店手数料収入等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	12,404
「その他」の区分の利益	542
セグメント間取引消去	53,081
全社費用(注)	△54,360
四半期連結損益計算書の営業利益	11,668

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「通信販売事業」において、新型コロナウイルス感染症の影響に伴い今後においても収録の中止又は収録回数の減少の可能性が否定できないこと、また広告主である顧客の動向が現状においても不確実であることから、当該感染症の影響が継続する前提で将来の回収可能性を検討した結果、当該事業譲受時に計上したのれんの全部を減損し、減損損失49,790千円を当第3四半期連結累計期間に特別損失として計上しております。

(のれんの金額の重要な変動)

上記のとおり「通信販売事業」において、のれんの減損損失49,790千円を当第3四半期連結累計期間に特別損失として計上しております。

4. 報告セグメントの変更等に関する事項

(報告セグメントの変更)

第1四半期連結会計期間において「出版関連事業」の量的重要性が低下したことに伴い報告セグメントから除外し「その他事業」に含めております。その結果第1四半期連結会計期間より「理美容事業」、「教育コンサルティング事業」及び「通信販売事業」の3つの報告セグメントとしております。なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報は、当第3四半期連結累計期間の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示しております。

(事業セグメントの利益又は損失の測定方法の変更)

第1四半期連結会計期間より報告セグメント別の経営成績をより適切に反映させるため、理美容事業、教育コンサルティング事業及びその他に関する一部費用の配賦方法を各セグメントの事業実態にあった合理的な基準に基づき配賦する方法に変更しております。なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報は、当第3四半期連結累計期間の利益又は損失の測定方法により作成しております。